



●色彩教材研究会研究発表会を終えて

「秋の研究会旬間」の一企画として11月23日に「色彩教材研究会研究発表会」を開催致しました。色彩についての様々な分野から6名の登壇者に発表して頂きました。

参加者は61名と大盛況でした。温かな雰囲気だったとの評価を頂いております。

登壇者の中からは、皆様良く研究されていて、異なる分野なので聞き手としても楽しめました。とのご感想も頂きました。

日頃、研究されている皆様の中には、発表者になるのを躊躇される方もいらっしゃるかもしれません。次回は、少しの勇気をもってお申込みください。お待ちしております。

当日の写真を掲載致しました。一部の方が映像の枠に入らなかったことをお詫び申し上げます。

(三本)



●季語集の中の色名ー1

俳句の季語に組み込まれている色名の実態を水原秋桜子編の「季語集」から調べて見ました。(昭和30年9月17日発行、昭和38年10月1日再版、発行所：大泉書店)

水原秋桜子(みずはらしゅうおうし)(1892~1981)は日本を代表する俳人の1人で、東京の神田で生まれました。「秋桜子」は俳号で、本名は豊(ゆたか)。彼の最大の功績は、新興俳句運動の旗手として、現代俳句の基礎を築いたことです。定型や季語といったルールは守りつつ、23冊もの句集を発表し、抒情性のある俳句を多く残しました。

「季語集」は、春の部、夏の部、秋の部、冬の部に大別し、さらに春の部を早春・蘭春・晩春とするように13分類されています。

この季語集は、さらに自然・生活・風習・動物・植物に分類して羅列していますが、季語と言うのは、一つひとつから、色彩を感じることができる言葉です。そういう単語に色名を組み合わせた熟語(合成語)を敢えて季語として定義している物を抽出することに意義があると考えるとともに、「季語+色」という合成語を新たに作って、「新しい日本語色名」を創造するのも面白いと考えています。一緒に試みてみませんか？ (永田泰弘)

新刊紹介「366日 日本の美しい色」

橋本実千代 [監修] 三オブックス発行
2021年10月21日発行 2,750円

本書は、「日本の美しい色」の知識と教養を身につけることができる本です。

皇族のみに許された禁色から江戸を虜にした流行色まで、美しい写真や絵とともに全366色が紹介されており、1日1色(1頁)ずつ「和の色」の魅力を楽しむことができます。実際には、興味が尽きず、次頁また次頁へと進みたくなる内容。頁をめくるたびに豊かな彩りが飛び込んできて心躍ります。

全366色が7つのテーマカラー「赤」「橙・茶」「黄」「緑」「青」「紫・桃」「無彩色」に分類され、共通の構成で解説されています。

各色の特徴や色名の由来、時代の背景などがわかりやすく解説されており、CMYK、RGB、Web数値も掲載。また「配色例」として、3パターンの配色と具体的なイメージが紹介されています。さらに「豆知識」として、文学や芸術等の知識・教養が深められる内容も載っている充実ぶりです。

日本独自の文化や生活の中で創り出され、受け継がれてきた風雅で美しい和の色と色名。まさに“日本の美のこころ”を未来に残してくれる名著です。(中塚陽子)